

教科	芸術	科目	書道	単位数	2単位	学年(科)	1学年
使用教科書	6 教図書 I 702						
副教材等	なし						

1 学習目標

- (1) 伝統芸術としての書文化の意味や価値を考え、書の良さや美しさを感じて表現の工夫をしていくようにする。
- (2) 書の特徴を理解させ基本的な技能、知識を身につけ芸術としての書作品を制作できるようにする。
- (3) 古典や現代書の作品を鑑賞し書に興味を持ち愛好する心を養うようにする。

2 指導の重点

- (1) 古典の書風や変遷を学び色々な特徴があることを理解させ、書の表現の方法や形式とその多様性を考えるようにする。
- (2) 古典の用筆、運筆、字形や全体の構成を見て、技術や感覚的なものを学び応用力や創造力を身につけ表現できるようにする。
- (3) 古典の書と現代書を比較しそれぞれの良さを理解させ鑑賞力を身につけるようにする。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・書写教育と芸術書道の違いを理解し芸術としての書の知識や効果的な表現をする為の基本的な技能を身につけるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書の古典の良さや美しさを感じ、臨書という基本練習から、用筆、運筆、字形を学び身につけて自己表現をする為の構想や表現を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書が他の芸術のようにグローバルな芸術となれるように社会との関わりを考え積極的に書の表現や鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・書写教育と芸術書道の違いを理解し芸術としての書の知識や効果的な表現をする為の基本的な技能を身につけるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書の古典の良さや美しさを感じ、臨書という基本練習から、用筆、運筆、字形を学び身につけて自己表現をする為の構想や表現を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書が他の芸術のようにグローバルな芸術となれるように社会との関わりを考え積極的に書の表現や鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・制作作品の古典の特徴の理解度と内容で評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・制作作品の表現や紙面構成の達成度とその内容で評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・課題の観察や集中して取り組んでいるか、また制作作品の内容から評価します。

5 課題・提出物等

- ・毎週課題作品の提出 ・篆刻の場合は完成した段階で印箋紙に押印して提出。

6 学習アドバイス

- ・古典の臨書から書の表現や技術的なことを学び、作品の鑑賞力を身につけるようにする。又、基本的な練習だけで終わらず学んだことと自分の想像力、創作力と絡み合わせて古典に立脚した個性的な作品を制作していくことが大事である

7 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4 5	書写教育から芸術 書道へ	1 (B、鑑賞)	<ul style="list-style-type: none"> ・九成宮禮泉銘 ・孔子廟堂碑 ・顔氏家廟碑 ・雁塔聖教序 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間学習計画と文房四宝 ・芸術書道への取り組み ・古典の臨書でその特徴を捉え用筆、運筆の技法を習得する。又、字形や線質の違いを捉え観察力を身につける。 	a	授業の取り組み
	漢字・楷書 (書唐の三大家)の 書	8 (共通事 項)			b	制作作品の内容 と完成度
	磨崖と龍門石窟の 書	4 (表現)			<ul style="list-style-type: none"> ・牛欄造像記 ・鄭文公下碑 	a b
6	楷書の倣書と創作	4 (A、表現)	・2字句の倣書と創 作作品	・これまで学習してきた古典 の特徴を活かし表現を考え 工夫して制作する。	b	制作作品の内容 と完成度 授業の取り組み
	漢字・行書	8 (共通事 項)	・蘭亭序	・蘭亭序とその筆者について ・楷書と行書を比較し違いを 理解し用筆、運筆の技法を 習得する。	b	作品内容 授業の取り組み
7	漢字仮名交じりの 書。漢字の創作	4 (表現)	<ul style="list-style-type: none"> ・自選句、又は自作 の詩 ・漢字2字句創作 	・詩文の文字の布置や漢字と ひらがな字形を考えて表現 する。	b c	作品内容 授業の取り組み
	漢字・隸書	6 (共通事 項)	・曹全碑	<ul style="list-style-type: none"> ・隸書の変遷と字形の変化を 理解する。 ・基本点画と特徴を捉え、用 筆法を習得する。 	b	作品内容 授業の取り組み
10	篆刻	8 (共通事 項)	・姓名印の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・印の種類を知り篆刻に必要 な用具と使用方法を理解す る。 ・文字配置を考え姓名印を刻 す。 	b	制作作品の内容 授業の取り組み
11 12	仮名の書	8 (共通事 項)	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の基本 ・蓬萊切 ・高野切第三種 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立について ・仮名の基本的知識を理解す る。 ・古筆の雰囲気や鑑賞し用筆 や運筆に集中し仮名独特の 連綿の美しさを習得する。 	b c	作品内容 授業の取り組み
1	漢字・行書	1 (B 鑑賞)	平安の三筆の書	日本人の書、特に平安初期の 作品の鑑賞。	a	授業の取り組み

2	漢字・行書	8 (表現)	風信帖	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者について ・字形、線質の特徴を捉え用筆、運筆の技法を習得する。 	a b	制作作品の内容 授業の取り組み
3	天平写経	4 (表現)	隅寺心経	<ul style="list-style-type: none"> ・心経の字数、行数、名前の入れ方を理解し表現する。 	b c	授業の集中度 作品内容

計 64 時間 (55 分授業)
(書道・佐藤三男)